

## チョコちゃんの引きつける力

3年 A.M

「ポーっと生きてんじゃねーよ！」というセリフを知っていますか。これは、NHKの「チョコちゃんに叱られる」というクイズ番組に出てくる着ぐるみの五歳の女の子、チョコちゃんが、正解することのできなかつた出演者に対して、言うセリフです。

この番組は、当たり前すぎてかえって答えられないような疑問をチョコちゃんが出演者に投げ掛けるクイズ番組です。

例えば、「乾杯するときにグラスをカチンとするのはなぜ？」「人と別れるときに手を振るのはなぜ？」「ポン酢のポンって何？」など、改めて考えてみると答えがわからない問題ばかりです。

四月からスタートしたにもかかわらず、多くの世代で番組にハマる人が続出しているそうです。このようなクイズ番組は他にもあるのに、なぜ「チョコちゃん」にハマってしまう人が多いのでしょうか。

インターネットに、「チョコちゃんに叱られる！」にハマる人の心理という記事があったので読んでみました。そこには大きく分けて三つの理由がありました。

第一に、一度見たら忘れられない「キャッチーな演出がある。」ということです。五歳の女の子が、顔を真っ赤にし、不正解だった出演者に対し、怒鳴ったり、時には可愛い表情を見せたりします。このチョコちゃんの姿を一度見たら、誰でも頭に残るでしょう。

私が初めてチョコちゃんを見た時、正直驚きました。なぜなら、突然、顔が大きく、赤くなり、煙を出しながら怒鳴るからです。

第二に、「テーマ自体が面白い」ということです。質問を聞いて確かにと考えさせられ、さらに答えを聞けば驚かされ、新たな発見をすることができます。

第三に、「笑える」だけではなく、とても「考えさせられる」ということです。素朴な質問について改めて考えたり、ただ答えを提示して終わるのではなく、そこにはとても考えさせられるテーマがあったりします。具体的に、「親と一緒に過ごせる残り時間は？」という質問が、過去にありました。みなさんはどう思いますか。これに対しこの答えは、「親の余命年数×一日」というものでした。大人が、別居している親と会える時間は、平均して一年に二十四時間程度だそうです。答えを聞くと、思ったより短く、「それしかないのか」と、考えさせられます。

このように、チョコちゃんには視聴者をひきつける力があります。着ぐるみなのに顔の表情がCGだったり、五歳という設定だけれど、口調は大人びていたり、今までにない斬新な設定が視聴者の心をつかんだのではないのでしょうか。

私は、この番組を見て、知っていそうで知らないことが、まだまだ沢山あることに気づかされました。また、人を引きつけたり、相手に興味を持たせたりするのは、簡単なことではないと改めて感じました。これまで小学校の時から、色々な人の発表やお話を聞いてきて、すごい面白いなと思うのはいくつもありました。しかし、今でもしっかりと記憶に残って

いるのは、やはり、インパクトのあるものだけです。頭に残るメロディーやフレーズを使うと、聞き手に強い印象を与え、記憶にも残りやすくなるのでしょう。

自分が発表する時、つまらないなと思われるより、面白い発表だなと思い、興味を持って聞いてもらう方が嬉しいです。だから、これから、人の前に立って発表する時には、キャッチーなフレーズを使い、人とは違う切り口で物事を考え、聞いている人たちを引きつけるような発表ができるようになりたいと思います。

チョコちゃんに、「ポーっと生きてんじゃねーよ」と言われないように、日々の物事の変化に気づき、疑問を持っていきたいです。